

平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■共同研究 7
主査名	根本敏則・一橋大学大学院商学研究科 教授
研究テーマ	課金などによる大型車マネジメントに関する研究

研究の目的:

大型車対距離課金、大型車走行マネジメントに関する諸外国の最新動向の把握

大型車対距離課金、大型車走行マネジメントを支える技術開発動向、標準化作業の進展状況の把握

わが国において課金などの大型車マネジメントを導入する際の課題の整理

研究の経過(4月～9月):

第1回 5月7日

野口氏より「ITS の国際標準化:WG5(自動料金収受)での日本提案の ETC2.0 関連の New Work Item」、倉橋氏より「ITS の国際標準化:次世代の規制商用貨物車の運行管理」、根本より「首都圏三環状概成時を念頭に置いた料金政策」の発表があり、その後討議した。

第2回 6月19日

野口氏より「車両重量(WIM など)による課金方法の開発」、倉橋氏より「ITS の国際標準化:次世代の規制商用貨物車の運行管理の課題」、脇嶋氏より「海外における大型車両の重量計測動向」、佐藤氏より「韓国 KEC の大型車専用 ETC 車載器・レーン導入の動向」の発表があり、その後討議した。

第3回 8月25日

野口氏より「ワシントン州における次世代動的課金」、倉橋氏より「中国高速道路の料金システム」、脇嶋氏より「豪州における制限重量緩和の動向」、山本氏より「国土幹線道路部会中間答申、参考資料」の発表があり、その後討議した。

第4回 10月29日

野口氏より「ITS の国際標準化:フランス大型車対距離課金の無期限延期」、「米国カリフォルニア州の Road User Charge の動向」、廣瀬氏より「ITS の国際標準化:アーバン ITS、ビッグデータ ITS のワーキング設立」、根本より「ドイツ、オーストリア、フランス、アメリカにおける道路課金」の発表があり、その後討議した。

下期へ向けて(課題等):

今後、海外事例の調査を継続するとともに、現時点で展開されている大型車マネジメントに関する施策体系を整理したい。

研究メンバー(敬称略):

根本敏則(主査・一橋大学) 原田昇(東京大学) 兵藤哲朗(東京海洋大学) 味水佑毅(高崎経済大学) 田邊勝巳(慶應義塾大学) 塚田幸広(土木学会) 野口直志(三菱重工業) 倉橋敬三(ケン・パートナーズ) 佐藤元久(高速道路総合技術研究所) 廣瀬順一(慶應義塾大学先導研究センター) 脇嶋秀行(建設技術研究所) 今西芳一(公共計画研究所) 鈴木克宗(道路新産業開発機構)

国土交通省:石川雄一 山本悟司 小原宏朗 沢掛敏夫 山本巧 手塚寛之 松本健